広報 向日市

No.315

昭和58年11月1日

◎発行　向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）
◎編集　秘書広報課　◎電話　075(931)1111

まちのうごき

（10月1日現在）		（9月中）	
世帯数	16,359世帯	生れた人	70人
人口	51,588人	亡くなつた人	18人
男	25,410人	転入した人	148人
女	26,178人	転出した人	223人

昭和57年度決算総額は、131億円に

財政運営の効率化に努力

昭和五十七年度の一般会計、特別会計の決算が、九月に開かれた市議会で認定されました。

近年の厳しい地方財政状況のもと、市では、財源の重点的・効率的配分に努め、決算額は、一般会計・特別会計（国保・下水道・水道・農業共済・老健医療）合わせて、総額百三十一億一千九百五十三万一千円となりました。

◎一般会計の規模と収支

五十七年度一般会計の決算額は、歳入百億八千八百九十一万八千円（前年度比十九億六百五万八千円、二三・三%の増）、歳出百億三千二百二十四万七千円（前年度比十八億八千四百十六万四千円、二三・一%の増）です。

決算収支は、五千六百六十七万一千円の黒字となり、保健センター建設工事にかかる事故繰越し繰越額一千四百六十七万五千円を控除した実質収支額は、四千百九十九万六千円の黒字となっています。また、五十六年からの純繰越金三千四百六十五万七千円を控除した単年度収支においても、七百三十三万九千円の黒字となっています。

一方、実質単年度収支においては、五十七年度中の財政調整基金のとりくずし額が五百六十二万六千円に対して、積立金が三億七千十五万四千円と、とりくずし額を上回ったため、三億七千百八十六万七千円の黒字となりました。

57年度決算報告

積極的な施策の推進を

民秋市長

私は、市長就任三期目を迎えたところでありますが、一貫して申しあげておりますように、地方自治の原点に立ち、清潔で明るい市民本位の市制の確立を基本に、福祉と文化と教育のかおり高いまちづくりのための施策の推進に全力を傾注してまいった次第であります。

ところで、行政をとりまく社会経済情勢は先行き不安定な様相を呈し、今日の経済の低成長下における地方財政は、ますます厳しい状況にあります。したがって、このような情勢に対処して、市民の暮らしを守る諸施策を進めるためには、行財政運営の効率化を図ることが急務と考え、昭和五十五年度から財政健全化計画の推進に積極的に取り組んでまいりました。

そのため、昭和五十七年度の財政運営にあたりましては、各種一般経費の徹底した見直しと可能な限りの歳入の確保を図るとともに、市民の暮らしに直結した事業の選択を行いまして、財源の重点的・効率的配分に意を注ぎ、厳しい財政状況の中ではありましたが、積極的に施策の推進を図ったものであります。

その結果、当初七十七億七千七百万円でありました一般会計の予算規模は、その後、地方交付税や国庫支出金の増額をはじめ、財産収入および市債の確保、さらには積立金の取りくずしによりまして、市民の要請にこたえる諸事業を中心に補正を図りました。これにより、歳入歳出予算規模を前年度繰越し事業分と合わせ、百億五千六百五十三万七千円とし、当初予算に比べまして、二十二億七千八百五十三万七千円の増といたしたものであります。

このような予算規模における昭和五十七年度の行政施策の執行にあたりまして、公約の実現と事業の進展を図ることができましたことは、市民の方々のご理解とご協力のたまものと、誠に感謝にたえない次第であります。ここに厚くお礼申しあげます。

57年度の主な事業

市民のくらしの周辺の環境整備

◇**道路**　新設および拡幅改良工事延長八百十一メートル。側溝改修工事四百九十七メートル。歩道新設。河川・排水路整備工事五百八十八メートルなど。

◇**都市計画**　久世北茶屋線街路整備。公園整備。市街地再開発事業の調査研究。

◇**環境衛生**　害虫駆除や防疫薬剤の散布。騒音、大気汚染、水質汚濁などの監視

◇**交通安全**　駅前の放置自転車対策。交通教室やセーフティクラブの開設

◇**清掃**　可燃ゴミ・不燃ゴミの収集。し尿収集

◇**消防**　防火水槽の新設および有がい化工事。消防ポンプ車購入、消防通信体制などの消防力の強化充実

◇**農業**　農道整備、小規模老朽ため池改修、かんがい排水整備などの基盤整備

◇**商工**　中小企業振興融資制度の融資枠を五千万円増額し、総額三億五千万円。経営講座、消費者大学、消費生活展の開催など。

市民の福祉と健康を守り高める

◇**老人福祉**　老人福祉センターの諸事業の充実。老人クラブへの助成。ねたきり老人・ひとりぐらし老人に対するホームヘルパーの派遣。入浴サービス助成。ゲートボール場の整備。

◇**障害者福祉**　乙訓若竹苑建設負担。福祉タクシー制度の支給対象の拡大。

◇**児童福祉**　保育内容の充実と施設の改善。無認可保育所にかかる補助など。

◇**健康**　成人病対策のための検診。母子保健対策のための母親教室、乳児検診、精神発達相談などの実施。保健センターの建設。

教育と文化の充実

◇**学校教育**　第6向陽小学校体育館の買取り。学校施設の維持補修。

◇**社会教育**　森本公民館の建設。第2留守家庭児童会施設の改築。森本遺跡の整備。

◇**社会体育**　市民スポーツカーニバルの開催。西ノ岡トリムコースの設置。

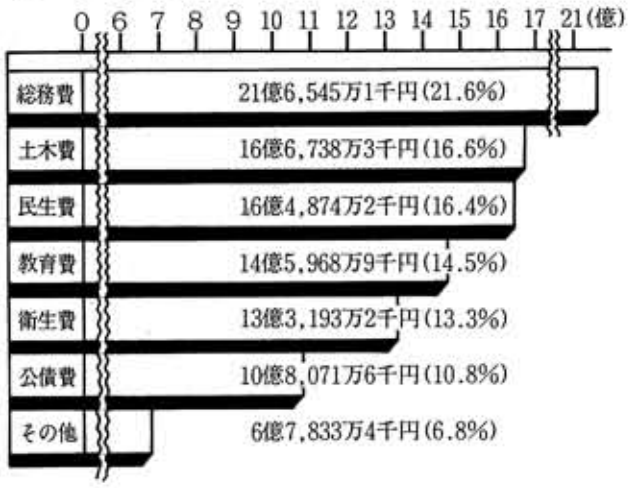
以上が施策の基本となる三本の柱ごとに、昭和五十七年度の主な事業をまとめたものです。

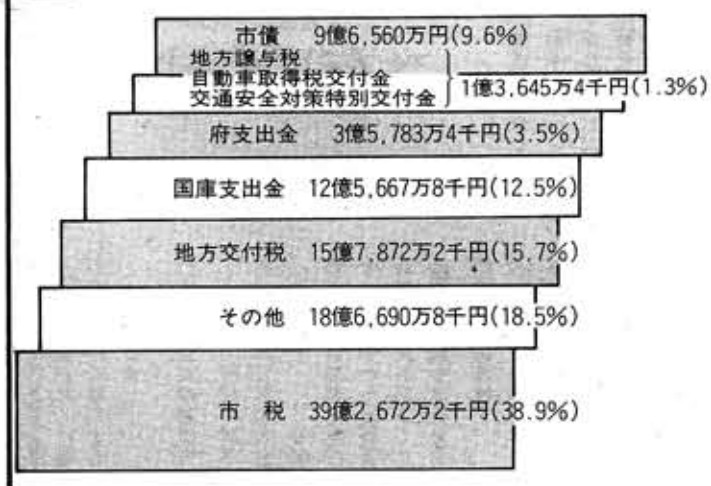
市民一人当たりは

昭和57年度、市民1人当たりに使われたお金は次のようになっています。

▷議会費	2,936円	▷商工費	1,364円
▷総務費	42,824円	▷土木費	32,975円
▷民生費	32,606円	▷消防費	6,489円
▷衛生費	26,341円	▷教育費	28,867円
▷労働費	895円	▷公債費	21,372円
▷農林水産業費	1,659円	▷諸支出金	71円

昭和57年度一般会計歳入・歳出決算内訳





特別会計

国保会計

昭和五十七年度の国民健康保険事業会計の決算額は、歳入十二億二千百八十万二千円（前年度比六%の増加）、歳出十二億九百四十四万三千円（前年度比四・二%の増加です。したがって、五十七年度は、一千二百三十五万九千円の繰越となりました。

歳入の主なものは、国庫支出金五四・一%、保険料四二・二%などで、歳出の主なものは、保険給付費九五・二%となっています。

老健医療会計

昭和五十七年度より新規の老人保健医療事業会計の決算額は、歳入八千四百五十万六千円、歳出七千九百四十二万六千円です（昭和五十八年二月実施）。したがって五百七万九千円の繰越となっています。

歳入の主なものは、支払基金交付金の六四・一%、国庫支出金の二二・七%で、歳出は医療諸費が九九・九%を占めています。

水道会計

昭和五十六年度の下水道事業特別会計の決算額は、歳入十億四千百七十三万二千円（前年度比十七・五%の増加）、歳出十億三千九百六十万三千円（前年度比十七・九%の増加）です。したがって、五十七年度は、二百十二万九千円の繰越となりました。

歳入の主なものは、地方債五四%、繰入金二七・五%、国庫支出金一四・四%などで、歳出の主なものは、事業費の七四%です。

下水道会計

昭和五十七年度の水道事業会計の決算額は、事業収益においては七億七千五百二十九万三千円（前年度比一〇・三%の増加）、一方事業費用は七億五千二百六十六万八千円（前年度比二二・七%の増加）です。したがって、五十七年度は、二千二百六十二万五千円の純利益が生じました。

事業収益の主要部分を占める給水収益は、五億五千五百七十一万一千円で前年度比三・三%増です。

農業共済会計

昭和五十七年度の農業共済事業会計の決算額は、収益的収入総額七百六十万三千円（前年度比五一%の減少）、収益的支出総額六百十四万四千円（前年度比六六・八%の減少）です。したがって、五十七年度は百四十五万九千円の剰余金積立となっています。